



もくじ



- P. 2～3. 子どもの権利条約
フォーラム 2016in関西終了！
- P. 4～5. SAYの会
- P. 6～7. HR(Human Rights プロジェクト)
- P. 8～9. 境界線って何？
～自分からはじめる暴力防止～
- P. 10～11. 愛着に課題のある子どもの理解と支援
- P. 12. 自分を信じ他者を受容する関わり
- P. 13. デートDV防止
スプリングフォーラム 2017
子育てひろば 1周年
- P. 14. NPOマーケティング研修に参加して
- P. 15. CAP活動報告
- 裏表紙 事務局からのお知らせ



子どもの権利条約フォーラム 2016 in 関西 終了！

「うちら（子ども）の言うた意見のまんま、言わしてくれた！（おとなが）言い方を
変えらんと」

これは、先日（2017年2月4日・5日）、大阪府立大学大学院で行われた教育の多様性について考えるフォーラムに参加依頼した子どもが、『子ども権利条約フォーラム 2016in 関西（2016年12月10日11日開催）』の報告を終えての質問に応えた言葉だ。

昨年、えんばわめんと堺は、子どもの権利をベースに活動している子ども権利条約関西ネットワークの構成団体に入り、延べ900名集客した『子ども権利条約フォーラム 2016in 関西』の全国フォーラムで、子どもの権利に関わる分野で参加した。

子どもの自主的な参加をどのように促すのか？ロジャー・ハートの子どもの「参画のはしご」（以下図面貼り付け）を思い出しながら、全国フォーラムの具体的な準備は半年以上前から始まった。

子ども自らの参加について、子ども会議の立ち上げ会では、まず“あそぶ”を大切にした。おとなもあそぶ、本気であそび、腹を抱えて笑う、失敗しても、もう一回。あー疲れたけどおもしろい、と始まった。次はいつ？今度は何する？と月一回の子ども会議の準備が進んだ。小グループで作成した手作りマイク。マイクを持って言いたいことを言おうなど、全国フォーラムのキャッチフレーズにそって「知る・変わる・動こうや！」子ども会議で子ども権利条約を知る⇒おとなに言いたいこと、聞きたいこと・・・を自分たちのやり方で伝えようと動き出した。

「きいてえや！ほんまはな・・・」と続く子どもの発言は、ゆっくりであったり小声であったり・・・「なんで宿題ってあるん？」「子どもはおとなの言うことをきかなあかんの？」と一人ひとりが自分の言葉で言った。子ども一人ひとりが違った表現の方法で言い、その表現をエンパワメントの関わりで尊重した。その日の子どものアンケートには「・・・はずかしかったけど、自分の意見を言えて嬉しかった」「ゆっくりやけど、意見が言えた」と記されており、子どもたちの力がふくれ上がっていくことを感じた。

この会場に来るまでは、きとおとなに動かされて来ていた子どもも、何かを見つけて率先して参加していた。本番の日が近づいてきたある日、準備をしていたおとなから「ほんまにできるんかな？」とポロリと出た不安な言葉に子どもが言った、「ハプニングに対応できるのがいいねん」と。子どもの力に魅せられた。

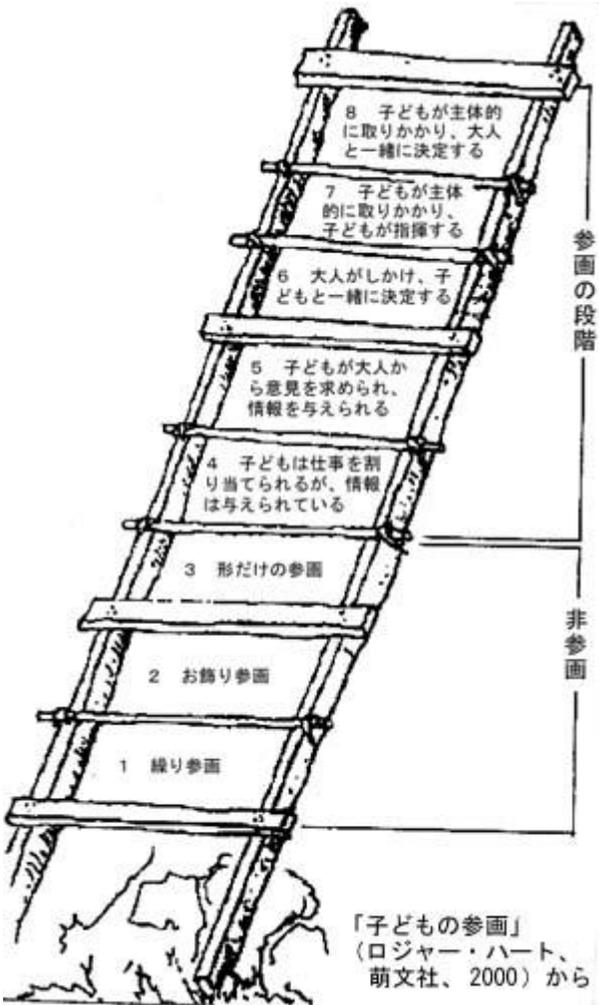




子ども権利条約を見ながら、今、子どもたちが思う疑問を問いに変えた。「言いたいことが言えていますか?」「どんな時に傷つきますか?」「遊びたい時に遊べていますか?」「だいにされていますか?」

学校でのようす、親やおとなへの表明、友だち関係のこと、そして社会に向けての意見を劇や俳句、映像で発表した。私たち、おとながどれくらい子どものホンネを聴けているだろうか? 発表は、わたしたちおとな社会への課題として大きな宿題となって預けられた。

(文責 さめ)



SAYの会

“子どもの権利条約フォーラム 2016in 関西”に参加して

昨年 12 月 10, 11 日に開催されたフォーラムの分科会に SAY（性・生）の会が参加しました。

テーマ 「思春期の心とからだの変化について」

多くの学校で活動している中で、課題であり大切だと考えていることを今回のテーマにしました。

プログラム

SAY（性・生）の会紹介

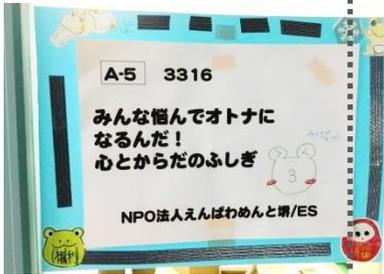
- ・性の多様 一人ひとりちがっていてあたりまえ
- ・自分の性は自分できめていい

大切なからだについて

- ・からだのことをどれくらい知っていますか？
- ・プライベートゾーン 自分のからだは自分だけのもの
- ・大型模型を使って思春期の変化について

ロールプレイ テーマ「つきあうとは？」

ねらい：周りからのピアプレッシャーやつき合いから
見えてくるジェンダーの刷り込みについて



高校生

少し照れながらも大切な事として聞いてくれ、
意見もだしてくれました



大学生

自分の友人や自分自身のこととして、
経験の中から共感的に話をしてくれ
ました

小学生

知識として聞いてくれ質問も
ありました



見学のおとな

自分の子育てや 10 代の頃を思い出しながら参加してくれました。



SAYの会より



見学のおとなの方たちが、価値観を揺さぶられる脱学習のきっかけにもなったのではないかと感じました。



自分の体験を通して考えてくれ本音で語ってくれました

学校教育の授業ではできない多様な 10 代が出会い意見を交し合うことで、学び合い話し合いの貴重な場と時間が持てたことは意義深い分科会でした。



2016 年度大阪府人権協会助成金事業の報告

「思春期のセクシュアルリプロダクティブヘルス&ライツの意識調査と検証」

対象：大阪府の高校 1 年生・2 年生対象 約 1,000 名

内容：10 代の性・生をともに考える ～デートDV・自分も相手も大切にしようコミュニケーションとは？～

ワークショップ（参加型学習）で実施

方法：授業前・後に子どもたちに性・生の意識調査の為のアンケートを実施 先生方にも実施

☆今後に向けて☆

10 代の交際中の約 4.4% がデートDV の経験があるというデータがあります。しかし予防・啓発教育は充分とは言えない現状です。2017 年度より SAY の会では、行政・企業などにも働きかけながら一人ひとりが大切にされる社会そして暴力のない社会を目指し、子どもたちへプログラムが届けられるように働きかけを続けます。



HR(Human Rights)プロジェクト

2016年度は、毎年継続している堺市、柏原市、泉南市、豊中市、箕面市の小学校、中学校や企業、団体で実施しました。また継続的に関わっている市では、他の学校にも届けて欲しいと依頼がありワークショップを届けることができました。そして四条畷市、阪南市の小学校や福祉施設などの新たな依頼もありました。新たに出会う子どもたちと継続して関わる子どもたち、どちらもとても大切に思っています。

初めて「聴く」目（め）耳（みみ）ハートは聴く合図。

毎年、「聴く」目、耳、ハートは聴く合図。

たった1年に1回45分間の出会いなのに、学校の廊下で出会うと、「あっ、目、耳の人」「目、耳なんやっけ？」ときくと、「目、耳、心 ハートはふふ、ふふ、ふ♪」と走っていきます。毎年会って、一人ひとりのところからだの成長を感じながら、関わっていきます。

継続して関わる子ども達の意識の中に構築がなされていく醍醐味を味わうことができます。



HR プロジェクトでは、毎回、担任の先生と子ども達の成長やその時の学年の課題や目標としていることを打ち合わせ時に聞き、その内容のなかですり合わせながら、プログラムの目的を決めていきます。

今年度は『境界線』について考えるプログラムを子どもたちへ届けることが多かったです。

ワークショップでは、子どもたちに『境界線ってなに？』『からだところの境界線』『プライベート（個人）とパブリック（公共）』について伝えました。

子どもたちは、初めて意識する境界線について、ロールプレイを見ながら考えました。人によって『イヤ』と思う事が違うことや『イヤ』にもそれぞれ理由が違うことに納得したり、受け入れられなかったり、それでも、自分がOKでも相手がイヤなこともあることにも気づくことができました。よくある遊びふざけから始まる暴力、自分がこれぐらいOKと想着いても、相手がいやなこともある。「境界線を守ることは自分を守ることに、相手も守ることにつながること」「境界線を守って、お互いを大切にしようね」と子どもたちに伝えていきます。

今年のESの研修にお招きした八巻香織さんが「子どもの境界線を境界線のないおとなが破っている」とおっしゃっていました。

私たちおとなは本当に境界線を守ることを肝に銘じて、これからも、子どもたちにワークを届けていきたいと思いました。

（ふじた）

<p>教育関係</p>	<p>* 子ども対象(学級単位・学年単位) < 柏原市 > 国分小学校(4年生2クラス) < 堺市 > はつしば学園小学校(2年生 3 クラス・4年生 3 クラス・ 6年生4クラス) < 四條畷市 > 四條畷小学校(4年生3クラス) < 泉南市 > 雄信小学校(5年生 1 クラス×2 回) 泉南中学校(1年生5クラス・2年生5クラス×2回) 西信達中学校(1年生2クラス・2年生2クラス×2回・ 3年生3クラス) < 豊中市 > 西丘小学校(全学年 計20クラス) < 箕面市 > 豊川北小学校(5年生2クラス×2回) 東小学校(4年生2クラス×2回) * 子どもとおとな対象 柏原市立柏原小学校(5年生2クラスと保護者) 阪南市立舞小学校(2年生2クラスと保護者) * おとな対象(教職員・PTA・一般) 豊中市立西丘小学校PTA研修</p>
<p>医療・福祉関係</p>	<p>* おとな対象 グローライフ(介護職員初任者研修・移動支援従業者研修・ 同行援護従業者研修 計22回) 放課後等デイサービス「みつばちファーム」職員研修 3 回連続講座</p>
<p>子育て支援関係</p>	<p>* おとな対象 子育てサロン「おたまじゃくし」 浜寺校区おもちゃ図書館</p>
<p>その他</p>	<p>* おとな対象(一般) シニア自然大学校</p>

☆今年度も「一人ひとりの力をたくさん見つけるエンパワメント授業」を通して
 子どもたちのパワーをたくさん感じた一年でした。(もちろんおとなのパワーも…)
 次年度もよろしくお願いします。

b y ありちゃん



境界線って何？～自分からはじめる暴力防止～

講師： 八巻香織さん（特定非営利活動法人 TEENSPOST 代表理事）

思春期・家族カウンセラー。SPA (Safer Peaceful Action:非暴力プログラム)ワークショップファシリテーター

「無意識のものを意識化するって結構むずかしいですね」…そんな言葉から始まった、NPO法人TEENSPOSTの八巻香織さんを講師に迎えての講演会でした。

自分と他者を分ける「境界線」って形としては見えない。どのように意識化していくのか。そこが聞きたい！と、私の焦る気持ちとは反対に、ゆっくりと音楽を聴きながら、静かに自分のからだを意識して自分と向き合う、そこから「境界線」の学びの時間が始まりました。感情には、怖い・楽しい・不安・好き・腹が立つ・いや・うれしいなどたくさんある。例えば、「怖い」は、感じることで安全を作る。「好き」は、関わりたいという感情。好きであればあるほど、

適度な距離を保つために「いや」の感覚が大切になる。感じないようにしたり無いものにしたりして感情を押し込めると、他者や自分に暴力を振るってしまい、自分も人もしあわせになれない。自分の感情に向き合い認め、自分の心を開き相手に気持ちや伝え、心地よい関係を築いていく。これが自分の「境界線」がしっかりとできているということだ。「自分は自分。あなたはあなた。だけど関係を断ったり、知らないわ～ってことではないです。」なるほど！SAY

(性・生)の会で思春期の子どもたちに届けている「デートDVの防止プログラム」で、伝えていきたいなあって思うポイント満載！前日に大阪入りした八巻さんが、話してくれたこと。

「商店街でどこの串カツ屋に入ろうかと相談していると、向こうからやってきたいわゆる大阪のおっちゃんと呼ばれる人が、携帯電話をかけながら、『あの店ええで～！』とだけ言って立ち去った。しっかり境界線を持った人だな～大阪の文化だなんて思った。」今まで頭でわかっただけでいたところに、八巻さんがスーッと風を吹き込んでくれ、改めて気づかせてくれた感覚。『やっぱり「境界線」って大事なよなあ。もっと伝えていきたい』と思いました。そして目には見えないこの「境界線」を、まずは私自身の中でしっかりと意識化していきたいと感じた貴重な2時間でした。

八巻さんが読んでくれた絵本「ファジーのきもち」から、心に残った3つの言葉を記して終わりとします。

Recognize (きもちを認める) Accept (受け入れる) Share (わかちあう)
(堀口博子)

挿絵：絵本“Fuzzy” by Teenspost より

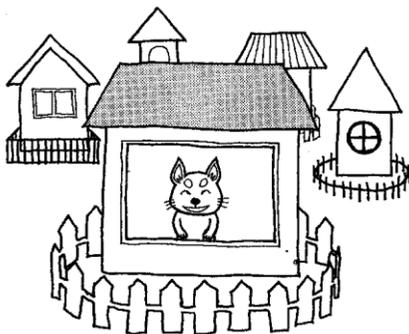


◎前日の八巻さんとの夕食会

「それぞれ、その話してください!」「そういうこと聴きたかったんです!!」とメンバーが身を乗り出すような話がいくつもありました。特に興味深かった話を記載します。

一つは、『なんでやねん』。「大阪の人は『なんでやねん (ポーズ付き)』って返すでしょ。あれは境界線を示しているのよね。」と八巻さん。相手が自分の境界線を踏み越えてきたから出て行ってと、自分の境界線を示しているということだそうだ。漫才の決まり文句と思っていたけど、そういう見方があったとは目からうろこでした。

もう一つ、『ごぼう売りのおじさん』。ごぼうを売りにくるおじさんがいて、そのごぼうはおいしくて大好きなのだけとおじさんは嫌い。おじさんが嫌いだからごぼうを買うのもあきらめないといけない、と思ったり、ごぼうを買うためにはおじさんも好きにならなくてはいけない、と思ったりするのは境界線のない人。境界線がある人は、おじさんは嫌いだけどゴボウは好きだから買うことができる。「境界線がしっかりあれば、自分の欲しいものを相手からもらうことができ得なのよ。」八巻さんのこの言葉は印象的でした。



「一人称にてのみ物書かばや。われは^{おなご}女ぞ。一人称にてのみ物書かばや。われは。われは。」翌日、ワークショップの冒頭で紹介された与謝野晶子の詩です。書くことは自分と対話すること。「私」と対話し、「私」の気持ちを認め、受け入れることが大切だ、と話されていました。まずは、自分がしっかりと「私」の境界線を意識して過ごしていこうと思いました。(いたはし)

挿絵：「ひとりのできるころの手あて」八巻香織著 より

感想

◎講座を拝聴しまして、「不安は期待とつりあっている」…不安が強い人には、期待を聞いてあげる…という事。ひろばでの利用者さんとの接し方、家庭での子供との関わり方を考えさせられました。「人は一人で産まれて、一人で死ぬ、そのなかで人と繋がる」のお言葉、共感しました。(北村)

◎自分の気持ちをもつ感情を知ることで自己分析につながると学びました。

とっさには分析はできませんが、その日あったことを書き出して、その時感じた自分の気持ちがわかると、苦しさや辛さの場合もポジティブに考えられる気がします。(フジイ)

2017年3月4日 堺市産業振興センターにて開催



愛着に課題のある子どもの理解と支援

講師：伊丹 昌一さん（梅花女子大学 心理こども学部 心理学科 教授）

6回目を数える伊丹先生の講演は、今回も大盛況で超満員となりました。

愛着に課題のある子どもに出会ったとき、私たちおとながどのように関わったらいいのか。子どもの背景、困り感、特性を考慮し、子どもの力を信じて関わっていくことを学びました。「こんな講演、もっと早く知りたかった」「感動しました」と、帰り際に受付スタッフに声を掛けてくださる人が多かったのが印象的でした。この日、お誕生日を迎えられた伊丹先生から心に響く言葉をいくつも貰い、明日への元気を頂いた時間となりました。

感想

☆私は子どもの支援に携わる中で、私自身の気持ちを子どもに正直に伝える場面があります。ある日、私は子どもにメガネを無理やり取られてしまいました。その時、私はとても困った表情で「いま、めちゃくちゃ嫌な気持ちしたわ。」と、メガネを取った子どもに言いました。「私は嫌と思って、悲しい気持ちになったから、もうやめてね。」と伝えた時、子どもは「わからん。」と話してくれました。

その子どもの表情は悪意がなく正直にわからないと言っているように私は見えました。

2月4日（土）伊丹さんのお話を聞いて…

感情ラベリング支援

子ども達に「〇〇していて嬉しそうやね」と感情の言葉を入れた会話をすることで、子どもが感情を学ぶことを促す支援。

私は伊丹さんのお話を聞いて、いま関わる子ども達の様子がたくさん頭に浮かんだと同時に、子ども達との関わりに対して、今まで以上にポジティブに前向きに捉えることができました。

「わからん。」と正直に伝えてくれた子どもに対して、日常の関わりの中で子どもたちが繰り返し学び合える機会を生み出していける支援者になりたいです。

☆支援している側として心を開いてもらいたいと、自分ペースで考えていたなと思うことがあり、まずは受け入れる、子どもを信じるのが大事だと改めて気づくことができました。

☆愛着形成不全と発達症の違いについて学べて良かった。

☆感動しました。2時間もまとまった話を聞くのは初めてでしたが、もっといろいろな事を学びたいと思いました。心があたたまり、参加出来て本当に良かったです。

☆色々な子どもと関わりながら、RAD*かな?と思える子どもとの対応の難しさを感じていました。(自分で勝手に苦手分野にしていました)お話を聞いて、もっとあの子と積極的に関わってみようかなと思える具体策を教えてもらった気がします。

☆発達症の特性と愛着形成不全の行動の見分け方、支援の方法を勉強したくて参加しました。とても分かりやすく理解できました。

☆愛着形成不全について考える時、自分自身について向き合うことが大切と感じた。

☆伊丹先生の言葉、存在から、気づき学び、ずっと大切に生き、子どもやおとな全て生きる人々と関わり続けてきました。大切なことはかわらない。

☆現在支援している子ども達の顔がたくさん浮かびました。こういう事なのか、こうしたらいいいのかなど、これからの支援に役立つ話ばかりで参加して良かったと思いました。学生時代に先生の講義が聴けていたらなあと思いました。

*RAD(反応性愛着形成不全)

2017年2月4日 堺市産業振興センターにて開催

ローズカーニバル

今年も、5月21日(日)に浜寺公園で開催されるローズカーニバル参加します。

フリーマーケットでの売上金および寄付金を利用して、

子どもたちへワークショップを届けます。

フリーマーケットに出品する品物を提供してくださる方は

ES事務所までご連絡ください。



☆自分を信じ他者を受容する関わり☆

私は子ども時代、内気で静かでした。特に小学校6年間は常に周囲の視線を気にし、身動きがとれなかったことを今でもよく覚えています。もしも、私がクラスで手を挙げて意見を言ったり、もしも私が賑やかな雰囲気の中で笑っていたりすると、みんなからどう思われているかと怯えていました。そのため、できるだけ目立たないようにしようと、「クラスの仲間と一緒に元気に笑って楽しく過ごしたい」というなりたい自分の姿を押し殺してきました。きっと私はクラスのみんなからは静かな子だと思われるのだから、6年生までは静かでいようと。その頃の私は、場所と人を選んで、本当に自分を隠して生活をしていたのかもしれませんが。こんなことをしたらこの人はなんて思うだろう、という恐れから出せずにいた本当の自分。自分の性格や言動や容姿や成績に自信がなく、ありのままを見せることが怖かったです。

家族にもよく勉強ができる2人の弟と比較され、ますます自信がなくなっていた頃、私は週に一度通っていたピアノ教室の先生から、ある言葉をかけてもらいました。「素直ですばらしいね。」私は、私を心から褒めてくれていることがすぐにわかったと同時に、ありのままに自分を認めてくれていると感じました。その時の気持ちはその後もずっと私の心を満たしてくれる安心の素になりました。今では、自分を誰にも見せることができないと思い隠していた当時の私の心を、ピアノの先生の言葉が開けてくれたように感じています。ありのままの自分を認めてくれた、ひとりのエンパワメントの関わりによって、子ども時代の私は塞いでいた気持ちを解放されたのです。

私は大人になってからえんばわめんと堺に出会い、ESの活動を通して、おとなが子どもの言葉信じ、子どものちからを信じてエンパワメントしていく関わりがどれほど大切かを再認識しました。私は現在、NPO法人えんばわめんと堺の活動会員として子ども支援に関わっています。クラス単位で授業に入っていく中で、「どうせ無理やし。自分にはできる方法はない。」と悩む子どもが「僕ってこんなこともできる！こんな方法もある！」と、自らのちからで本来持っているちからを輝くような表情で取り戻します。自分自身が子どもの時にピアノの先生にももらった言葉のように、私はESの活動で子どもたちと関わっていく中で、今後も子どもをエンパワメントする関わりを実現していきたいです。

(みかん)



☆NPOマーケティング研修に参加して☆

組織運営について何か勉強になれば・・・と考え 10月4日から、月に1~2回のペースで7回講座を受けました。第8回目の最終日3月14日(火)は、学んだことの成果発表をしました。各回終了後に、宿題を出され、それをメールで提出し、更にアドバイスをいただき再提出する感じで、ずっとマーケティングと向き合う大変な半年間でした。

ビジョン(めざす社会)を書き出してから当団体と社会、社会動向、当団体の役割、支援者、競合団体、協働団体を考えました。課題の抽出で委託金の不安定さや助成金がとれるかどうか分からないこと、活動を続けると助成金を取りにくい事など、どこの団体も同じだと話しました。長浜洋二先生より企業や他のNPOでの取り組みについて聞きました。たとえば会費や寄付の振込の方法は、従来の直接講座やイベント時に受け取るだけでなく、銀行振込、郵便振替、インターネット(クレジットカード、コンビニ決済、ネットバンク、電子マネー、PAYPAL)など利用することで利便性があることを学びました。「ペルソナ」(どんな人をターゲットにしているか)を団体内でイメージが出来ているか?という課題から当団体は、有償ボランティアの募集について考えました。何歳くらいの人、とかではダメで生年月日や住所、名前、性別、家族構成、趣味、悩み、普段使っているメディア、一日の生活リズムなど本当に具体的に考えることで今後、当団体に関わってほしい有償ボランティア像が、団体スタッフで共有できました。新たな取り組みも始めています。講座に参加してくれた人にアンケートを取り、年代、参加者の関心事や当団体への要望がわかりました。他団体と一緒にこのマーケティング研修に参加したことで、困りごとが同じでアドバイスをもらえたり、協働のできる企画を考えたりすることができたので、今後に向けて楽しみです。研修は、当団体の取組めていない課題が分かった反面、当団体の強み、良さ、可能性を再確認できたので良かったです。(しもいせき)



中区子育てひろば うきうきルーム 1周年!!!

昨年3月1日中区役所地下1階にオープンしたうきうきルームも早1周年を迎えました。初めての子育て広場の運営にドキドキ、ハラハラ(?)でしたが、この1年、本当にたくさんの方に利用していただきました。「ここに来るとホッとするんです。」と言ってくださったお母さんがいました。たくさん遊んだあと、「バイバイ!」とニコニコしながら帰って行った子どもがいました。今年度も、たくさん遊びに来てくださいね。



☆デートDV防止スプリング・フォーラム 2017☆

日時：2017年3月19日（日）

場所：男女共同参画センター横浜

主催：認定NPO法人エンパワメントかながわ

「デートDVをなくすために、つながりましょう」との呼びかけに賛同し、えんばわめんと堺もSAY（性・生）の会として参加しました。当日は21都道府県から136名が集まり、会場は熱気にあふれていました。関西からもいくつもの団体が参加されていて、頼もしかったです。各団体の取り組みの報告や、活動紹介のあと「デートDV防止全国ネットワーク」の設立が宣言され、「デートDV防止全国マップ」もお披露目されました。このマップは、それぞれの地域でこういった団体がどんな支援をされているのかが掲載された日本地図です。ぜひインターネットで「デートDV防止全国マップ」と検索してみてください。

SAY（性・生）の会もティーンエイジャーを中心にデートDV防止・啓発に取り組んでいますが、このフォーラムに参加したことで、同じ思いで活動している団体・個人が全国にこれほどいるということを知り、本当に心強く感じたフォーラムでした。（いたはし）

北野さん還暦サプライズ

一人をターゲットにすることがこれほどチームワークを良くするのかと驚いた！

byきたの



赤いドレス姿で登場した北野さんには驚かされましたが、賛同メンバー全員の思いが一つとなりサプライズ返し大成功！！

byあかほ



堺 CAP プロジェクト活動報告

2016年9月～2017年3月まで

	子どもワークショップ									おとなワーク ショップ	
	小学校			幼稚園・保育所			中学校			回数 (教職員)	人数 (教職員)
	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数	校数	クラス数	人数		
9月	20	52	1697	0	0	0	0	0	0	20 (20)	72 (72)
10月	18	42	1334	0	0	0	0	0	0	18 (18)	60 (60)
11月	10	24	817	0	0	0	0	0	0	10 (10)	34 (34)
12月	10	30	1031	1	1	27	0	0	0	12 (11)	61 (42)
1月	6	15	525	1	1	23	0	0	0	8 (10)	26 (26)
2月	3	9	287	2	2	55	1	3	121	6 (6)	20 (20)
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	67	172	5691	4	4	105	1	3	121	73 (72)	273 (254)

☆CAP スペシャルニーズプログラム子どもワークショップ 支援学校1校1ワーク 16人



2017年度 新しい取り組み計画中！

「子どもをエンパワメントするファシリテーター
学習会（仮）」始める予定です

詳細が決まりましたら、HPでお知らせします。

ご期待ください！



第15回 ES総会&イベント ご案内

☆日時： 2017年5月14日（日）

・総会—13:15～ ・イベント—14:30～16:00

☆場所： 堺市立人権ふれあいセンター

☆イベント内容：『さとにきたらええやん』

映画上映&出演者とトーク

会員募集～入会手続き～

正会員 5,000円

（初年度のみ入会金 3,000円）

賛助会員 1,000円（入会金なし）

◎ 更新日は年2回（1月31日・8月31日）です。

◎ 会員有効期間は1年です。

郵便振替～通信欄に必要事項をご記入ください。

加入者名 特定非営利活動法人えんばわめんと堺

口座番号 00920-9-182116

〒599-8244 堺市中区上之801番5号

特定非営利活動法人えんばわめんと堺/ES

TEL:072-230-5588 FAX:072-230-5589

E-mail: empowerment@lily.ocn.ne.jp

正会員 28名

賛助会員 126名（136口）

2017年 3月

ESの活動はみなさまからの寄付、ご支援にささえられております。今後ともよろしくお願いいたします。



編集後記

今春、子どもが大学に進学しました。友達を含め「経済的事情による受験の違い」を多く見ました。数年前の上の子どもの時には感じなかったことで、社会の状況が変化していることを実感した出来事でした。一方、受験をとおして、友達同士支え合って前に進む姿、子どもたちの力も多く見ました。進路の岐路に立ち、おとなになっていく子どもたちを、私は見守り、エールを送ることしか出来ませんでした。子どもたちが安心・自信・自由のきもちで生きていけるように、おとなが考えなくてはならないこと、あらゆる所にあります。

（しおざき）